

シンポジウム 2：臨床検査技師の大学院教育を考える：現役大学院生からのメッセージ

6. 社会人大学院生のメリット・デメリット ～人を育てながら、自分も育つために～

中原 貴子*

[要 旨] 臨床検査技師教育の主体が3年制から4年制に移行されたことに伴い、国立大学を始めとする多くの大学において大学院の設置が進み、大学院教育が充実してきた。また、社会人にも大学院への門戸が開かれ、仕事を続けながら講義や研究指導が受けられるようになった。社会人大学院生のメリットとして、「研究テーマが日常業務の中には豊富にあり、研究テーマを見つけやすい」、「大学院での経験を即仕事で活用出来る」、「修了後は業務を継続出来る」などが挙げられる。また、デメリットとして、「日中の講義受講が困難」、「研究時間が限られる」、「職場・家庭の理解と協力が必要」などが挙げられる。

3年制短期大学で臨床検査技師を目指す学生の指導を行い(人を育て)ながら、社会人大学院生として自分を育てている自身の経験をもとに、臨床検査の実務能力と研究を組み立てる能力を併せ持った臨床検査技師の育成が必要であると考えます。

[キーワード] 社会人大学院生、大学院教育、臨床検査技師教育

はじめに

臨床検査技師教育の主体が3年制から4年制に移行されたことに伴い、国立大学をはじめとする多くの大学において大学院の設置が進み、大学院教育が充実してきた。また、社会人にも大学院修士課程、博士課程への門戸が開かれ、学位取得が可能になった。

私自身、3年制短期大学で臨床検査技師を目指す学生の指導をしながら、社会人大学院生として博士後期課程に在籍し、学位取得を目指している。社会人大学院生のメリット・デメリットをはじめ、臨床検査技師教育について私見を述べたい。

I. 臨床検査技師養成校の変遷

臨床検査技師養成校の数を図1に示す。臨床検査技師養成所指定規則が改正された平成12年には3年制専門学校や短期大学が4年制大学の3.7倍である。しかし、平成19年には3年制と4年制の比率が逆転し、平成28年には4年制大学の方が3年制の約2倍となり、臨床検査技師教育の主体は3年制から4年制へと高等化・長期化していることが分かる。

また、教育協議会に加盟している4年制大学54校のうち、81%の44校が大学院を設置しており、大学院教育の充実が分かる。平成11年の学校教育法施行規則の改正により、大学院の入学資

*岡山大学大学院保健学研究科検査技術科学分野/川崎医療短期大学臨床検査科 tnakahara@jc.kawasaki-m.ac.jp

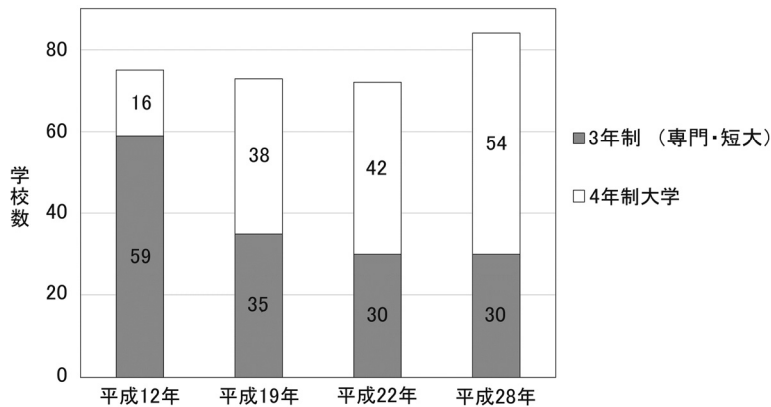


図1 臨床検査技師養成校の変遷

格が緩和されたことで、4年制大学を卒業していなくても、実務経験や学会発表や論文等の業績が考慮されれば、大学卒業と同等とみなされ、大学院の受験資格が与えられるため、社会人の大学院進学が可能となった。現在では、長期履修制度や夜間開講講義も充実しており、様々な職種の社会人大学院生を受け入れている大学院が増えている。

II. 自己紹介

私は紆余曲折を経て臨床検査技師になった。高校の時から分析化学に興味を持っており、長崎大学の工学部応用化学科(現:工学科化学・物質工学コース)ではナマコ的一种である *Cucumaria echinata* から抽出されるレクチンの溶血活性について研究を行った。大学卒業後、某果汁飲料メーカーの研究開発部研究科に勤務し、果汁の成分分析、微生物検査、毒物検査に従事したが、結婚により退職を余儀なくされた。果汁の分析技術の更なる向上だけでなく、ヒト血液成分の検査法についても興味があったため、一念発起して臨床検査技師を目指すことにした。半年間の受験勉強の末、川崎医療短期大学臨床検査科に入学、一回り近く年下の同級生と切磋琢磨しながら臨床検査技師の国家資格を取得した。卒業後は臨床検査センター、総合病院勤務を経験し、縁あって母校である川崎医療短期大学臨床検査科に教員として戻ってきた。川崎医療短期大学では、生化学と免疫・輸血検査

学の講義と実習を担当している。

教員として勤務を続けながら、現在は社会人大学院生として、岡山大学大学院保健学研究科博士後期課程に在籍している。

III. 自分を育てる

大学院に進学した理由として、「研究への興味・関心」と「教員としての学位取得の必要性」が挙げられる。

臨床検査技師としての数年間は仕事を覚えることに精一杯で、研究らしい研究が出来ておらず、教員になってからも知識・技術不足を感じていたため、研究に対する考え方や研究の進め方など、研究者としてのノウハウを蓄積したいと思い進学した。研究を通して専門的知識を深め、学んだことを学生指導へ活かすためには学位取得の必要性を強く感じていたが、実際職場からの後押しもあったことで決心がつき、社会人大学院生として大学院に進学することが出来た。

私の場合、幸いにも職場には医科大学・附属病院が併設されており、医科大学の検査診断学教室の中で研究をさせて頂く事が出来た。研究室では、基礎的な実験技術を習得出来るだけでなく、医大の大学院生とディスカッションをする機会が多々あり、充実した環境の中で問題解決能力を身につけることが出来た。また、岡山大学では夜間開講や web class の受講といった学習支援があるだ

けでなく、抄読会やミーティングが定期的に行われているため、論文の読解力やプレゼンテーション能力なども高めることが出来た。しかし、大学院の指導教官に研究の進捗状況を報告するものの、フルタイム院生や他の大学院生に比べると指導教官とディスカッションをする時間は十分に確保出来ないため、メールで相談したり、ミーティング後に相談に乗って頂いたりしている。博士後期課程に進学してしばらく経ったころ、自身の初めての出産を経験した。慣れない育児もあり、数年間は教員・母親としての業務を優先せざるを得なくなり、焦って何も手に付かず、1年半の休学を申し出た。現在は子供も5歳を過ぎ、子育ても落ち着き、日常業務と研究に追われる毎日を送っている。

IV. 社会人大学院生のメリット・デメリット

一般的に社会人大学院生のメリットとして、臨床現場(職場)には、研究テーマが揃っており、比較的研究に取りかかりやすいことが挙げられる。また、修了後は職場の仕事を継続出来るため、大学院で学んだことを即仕事に活かすことが出来る。

一方、デメリットとしては、業務終了後に講義を受けに行かなければならない点や、研究時間を確保することが困難な点が挙げられる。日中に開講されている科目やセミナーの受講が制限されるため、修了に必要な最低限の科目のみ履修することとなってしまう、講義による知識の幅を増やすことが難しい。実験を行うにはまとまった時間が必要であり、行う時間内にやるのが困難なため、まとまった研究時間が取れない。また、受講や研究のためには業務を同僚に頼まなければならない、休日に研究室へ行くことになれば家事・育児などを家族に頼まなければならない。社会人大学院生にとって、職場や家庭の理解と協力を得ることは必要不可欠である。

V. 人を育てる

職場は3年制指定校ということもあり、学生の多くが医療機関で臨床検査技師として働きたいという明確な目的を持って入学してくる。川崎医療

短期大学では2年次の後期から3年時の前期までの約1年間に2つの附属病院(川崎医科大学附属病院、川崎医科大学総合医療センター)にて臨床(臨地)実習、そして3年次の後期に10週間の卒業研究を実施している。臨床の現場で知識・技術を身に付けた後、教員とともにテーマをもって研究を進めていくことで、より一層考える力を養うことが出来ていると考える。大学院で学んだデータの見方や研究の進め方を学生に指導出来たことで、4年制大学に編入してスキルアップを望む学生も出てきた。また、就職後数年経って、キャリアアップのために大学院進学を考えている卒業生も少なくない。

研究を通して専門的知識や技術を高めていくことの大切さを教授するだけでなく、学修したことを臨床の現場で活かすことの出来る、目的意識を持った臨床検査技師を育てることが重要である。そのことを理解した上で、研究者・教育者となりたい、より専門性の高い臨床検査技師を目指したいという学生には学位取得を勧めている。

本学のほとんどの学生は卒業後医療機関等で臨床検査技師として働いている。一方、博士学位取得後の進路調査結果¹⁾では国公立大学・私立大学ともに大学教員や研究機関で働く人が多く、臨床検査技師として医療機関で働く人が少ないのが分かる(図2)。大学院教育において研究者・教育者としてのスキルを身に着けることも大切ではあるが、臨床検査の専門家として医療の現場でリーダーシップのとれるような臨床検査技師の育成も必要である²⁾と考える。

また、将来臨床の現場で他職種の人達と良好な関係を築くことが出来るだけでなく、チーム医療に貢献していくためにも研究に携わる人達と関わりを持つことは、必要である³⁾と考える。

VI. 学位取得を目指す皆さんへ

社会人大学院生にとって業務と大学院との両立は容易ではない。最先端の研究に携わることが出来るため、非常にやりがいがある。しかし、現実的な問題として、学位取得には時間と費用が掛かる。国立の大学院に進学した場合でも修了するま

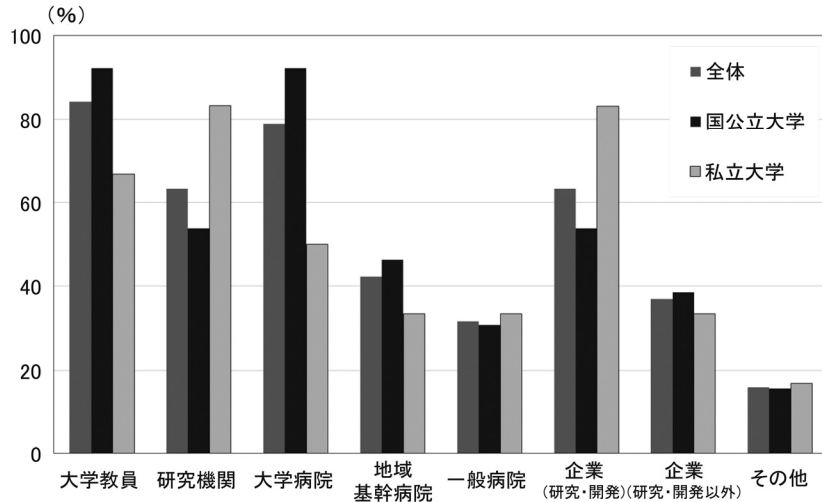


図2 博士学位取得後の社会貢献

での5年間で入学金や授業料等あわせて300万円程度必要である。また、業務時間外に研究を行うため、時間が足りない。特に勤務年数が長くなってくると、職場での責任が増し、より研究時間が限られてくる。また、子育て等によって時間がとられてしまうことも生じてくる。体力的・精神的にもかなりの負担がかかってくる。これらのことから、職場や家庭の理解と協力が必要不可欠なため、日ごろからコミュニケーションをとっておく必要がある。

VII. ま と め

臨床検査技師養成校には臨床診断や治療経過を判断するために正確で迅速な結果を返すことが出来る臨床検査技師を育てることが求められている。そのためには検査知識や技術の習得は必須であり、臨床検査教育の高等化・長期化は必然的である。修士課程においては高度な医療専門職の育成コースなどを開設している大学院も増えつつある。

大学院ではさらに幅広い学識と高度な技術を持つ研究者・指導者を育成することが求められる。社会人大学院生は働きながら研究者・指導者と

してのスキルを上げていくことが出来るため、臨床現場で期待されるものが多い。

高校生のなりたい職業ランキング(2009年)では、「臨床検査技師」が男性9位、女性5位と臨床検査技師の認知度も上がってきている³⁾。臨床検査の実務能力と研究能力を併せ持った優秀な臨床検査技師として活躍出来る人材を医療の現場に送り出せるよう指導してだけでなく、自らも研究者として育っていききたい。

謝辞：本文をまとめるにあたり、ご助言くださいました川崎医療短期大学の陶山洋二先生、近末久美子先生、上野浩司先生をはじめとする関係の先生方に深謝いたします。

文 献

- 1) 和合治久. 臨床検査技師を養成する大学および大学院における現状と各種取り組みに関する調査報告. 臨床検査学教育 2015; 7(2): 230-51.
- 2) 加藤亮二. 4. 臨床検査技師教育における大学院修士課程の検証. 臨床検査学教育 2013; 5(1): 19-25.
- 3) 第2回子ども生活実態基本調査. ベネッセ. 2009 http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/kodomoseikatu_data/2009/pdf/data_11.pdf